

ポスター報告 29

駒澤 真由美 立命館大学大学院 先端総合学術研究科

#報告題目 障害を抱えた人たちは誰とどのように働くのか ――ある社会的事業所の活動を事例に

#報告キーワード 就労支援 社会的事業所 共働

#報告要旨

通常の資本主義社会では障害を抱えた人たちは労働市場から排除され、その多くが非就労を余儀なくされるか、福祉的就労の場に囲われて生きている。国の法制度や施策は「障害者は福祉の専門家に支援されて結果として就労できる」という枠組みのもと、立案施行されている。しかし、こうした先行言説とは違うやり方で、精神や身体あるいは知的に障害を抱えた人や刑務所出所者など社会から排除された人たちが助け合って「共に働き、共に生きる」場がその数はまだ少ないものの実在する。

一般就労でもなく福祉的就労でもない、この第三の就労と称される共生・共働の場で働くことが、障害を抱えた当事者たちに何をもたらしているのか。一般就労や福祉的就労と何がどのように違うのか。その違いはどこからくるのか。そこで本人たちが得ているものとは何なのか。本稿では、ある社会的事業所での参与観察と聞き取り調査を通して、障害を抱えた当事者たちが「分けない、切らない、共に働く」ことを理念とする就労の場で何を体験しているのかを明らかにする。そのことを通じて、どのような就労支援をすればよいか、あるいはどのような支援をしないほうがよいかを提言できると考える。

なお本研究は、立命館大学における人を対象とする研究倫理審査委員会の承認を得て、実施した（倫理審査番号：衣笠 - 人 - 2017 - 89）。